

第2章 都市基本構想

1. 篠栗町のまちづくりにおける視点

都市概況や上位・関連計画における本町の位置づけ、住民意向調査結果から、現在の本町のまちづくりにおける問題点を整理し、求められるまちづくりの視点を整理します。

○社会的経済的条件

高齢化社会の進行と人口減少社会への対応

- ・福岡都市圏のベッドタウンとして、広域交通の利便性と豊かな自然を抱える住みやすい住宅市街地として住民にも比較的満足度の高い都市です。
- ・県平均よりも高齢化率が低いとはいえ、定住型都市であり、高齢化は確実に進んでいることから、今後のまちづくりにおける高齢化社会の進展への対応が求められます。

広域交通網を活かした産業集積と活性化

- ・広域交通の玄関口である九州自動車道福岡インターチェンジに近接している交通利便の良さに対して、工業団地や流通系施設の立地は一部みられるとともに、新たに工業団地が完成し、企業の集積が進んでいます。これらの集積を活用し、関連企業の誘致や新たな産業の育成等が求められます。
- ・一方で、隣接市町には郊外型の大規模集客施設が多数立地しており、大都市への通勤・通学のみならず、日常的な生活行動さえも隣接市町に依存する傾向にあります。

○土地利用・市街地環境条件

道路や公園等の都市基盤の充実

- ・現在の市街地は、農業集落と街道沿いの宿場町の歴史を背景に形成されてきたものであり、丘陵部の一部の大規模な計画団地を除いては、中小規模の開発行為の集積により形成されたものです。
- ・また、骨格を担う幹線道路、鉄道、河川がすべて東西方向であり、市街地の南北方向を分断する要素となっており、南北の往来を促進する基盤施設が不足しています。
- ・さらに、身近な公園が不足するエリアもあり、日常生活から産業活動までを支える都市基盤の整備状況において、やや不十分な状

況にあります。

大規模遊休地や市街地内未利用地の活用

- ・市街化区域内には、まだまだ多くの農地・未利用地が残されており、計画的な市街化の促進を図るとともに、市街化調整区域に分布する大規模な遊休施設地に対する適切な土地利用の方向性を示していくことが必要です。

アメニティの充実した市街地環境と住環境の向上

- ・市街地の背後に広がる豊かな緑や、市街地内を東西に流れる河川等、豊かな自然環境が身近にある一方で、これらを活かした市街地整備にはいたっていません。
- ・住宅が集積するのみではなく、多様な都市施設の集積を図るとともに、魅力ある公園や水辺等のオープンスペースの創出など、住環境の向上に資する魅力ある市街地環境の整備が不足しています。

恵まれた自然と調和した計画的な開発の誘導

- ・福岡都市圏のベッドタウンとして住民の満足度が高い本町は、恵まれた自然や特徴ある文化を住民が誇りに感じています。
- ・それら本町を特徴づけている景観に悪影響を与えないよう、計画的かつ良好な開発を誘導し、新たな住宅需要に対応し、質・量ともに適切な宅地整備を行っていくことが必要です。また、開発においては水害などの災害リスクへの十分な配慮が求められます。
- ・本町は、鉄道やバイパス等の広域交通の利便性が高いものの通過交通が多く、来訪者の交流や街中でのひとのにぎわいが見えづらい状況となっています。
- ・地域における交通拠点や観光拠点を活用しつつ、町民はもとより、来訪者との交流も含めた拠点の形成を進め、賑わいによる町の活力創出を進めていくことが必要です。
- ・新規開発地等の脱炭素化への誘導及び自然環境の保護を考えた秩序ある再生可能エネルギー施設の整備に努めていきます。それには、脱炭素政策及び災害レジリエンス強化と連動したまちづくりを進めることが必要です。

2. まちづくりの目標

(1) 篠栗町総合計画における将来像

本町のまちづくりの基本方針である「第7次篠栗町総合計画」では、本町の住民や本町を訪れる様々な人、また本町の豊かな自然と人が互いにつながり合い、人々の喜びにあふれたまちづくりを行うことを目指し、以下の将来像を掲げています。

篠栗町が5年後にめざすのはどんなまち？

将来像

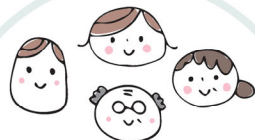
人と人 人と自然がつながる
喜びのまち

篠栗町の住民や篠栗町を訪れる様々な人、
また篠栗町の豊かな自然と人が互いにつながり合い、
人々の喜びにあふれたまちづくりを行うことをめざし、
「人と人 人と自然がつながる 喜びのまち」を、
町の将来像としました。

みなさんからいただいた声も参考に

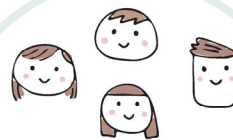
将来像を描きました

住民アンケート



アンケートの回答者
882人のうち約9割の方が
「篠栗町に愛着を感じる」
と回答

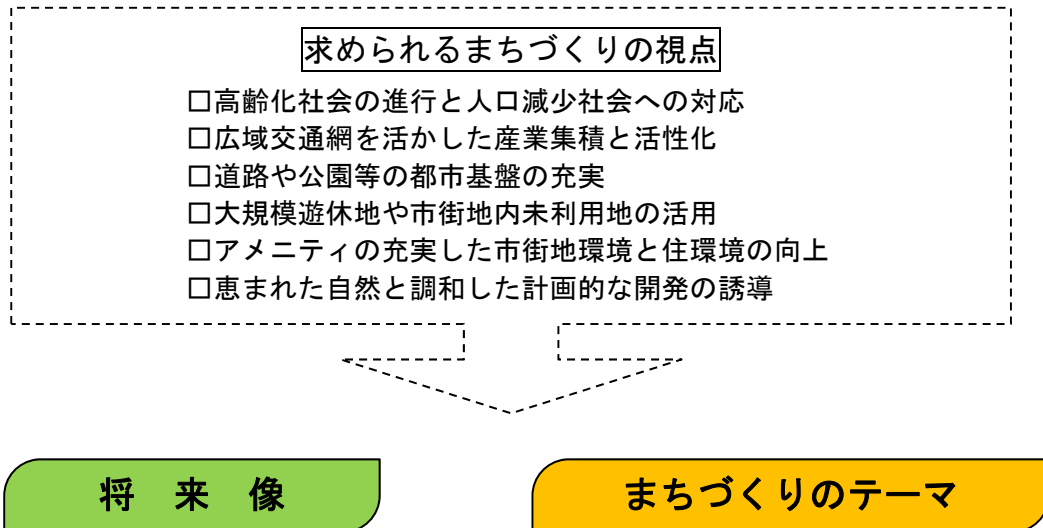
中学生アンケート



アンケートの回答者
923人のうち約9割の方が
「篠栗町が好き」
と回答

(2) 篠栗町都市計画マスタープランにおける将来像

篠栗町都市計画マスタープランにおける将来像は、「第7次篠栗町総合計画」において掲げられた将来像とし、その実現にむけ、求められるまちづくりの視点をふまえ、「まちづくりのテーマ」を掲げます。



将来像

まちづくりのテーマ

人と人
人と自然
がつながる
喜びのまち

- まちの顔となり、多くの人が集い憩う中心拠点を形成します
- 広域的な交通利便の高さを活かし、まちの活力となる産業力を高めます
- 子どもからお年寄りまで誰もがいきいきと活動する自立的な地域を育てます
- 災害に対するまちの防災力を高めます
- 生活利便の高さと、豊かな自然が織り成す誰もが暮らしやすい住環境を形成します
- 豊かな自然が作り出す美しい風景を守ります
- 住民が育んできた豊かな資源を活かし、観光力を高めます

(3) まちづくりのテーマと将来の生活像

まちの顔となり、多くの人が集い憩う中心拠点を形成します

- ・まちの玄関口であるJR篠栗駅や、多様な住民が行政サービスから健康増進や交流の場を担う公共施設が集積するエリアをまちの中心拠点と位置づけて、都市機能の強化と回遊性の向上を図り、まとまりのある市街地の形成と公共交通ネットワークによるウォーカブルかつ脱炭素のまちづくりを目指します。
- ・クリエイト篠栗やオアシス篠栗の文化・交流施設から、近くを流れる多々良川の水辺までのエリアを一体的に整備・活用することにより、多くの住民や来訪者が集い憩うまちの顔となる都市環境の形成を図ります。

【将来の生活像】

中心拠点では、平日・休日を問わず、多くの住民や来訪者がいきいきと集い、多々良川の水辺の散策や、文化・交流施設での多様な活動を楽しんでおり、篠栗町の顔となるウォーカブルで賑わいのある光景が見られます。

広域的な交通利便の高さを活かし、まちの活力となる産業力を高めます

- ・九州自動車道福岡インターチェンジ及び福岡都市高速粕屋出入口に近接し、福岡市と筑豊地域を結ぶ国道201号が通る交通利便の高さを活かした企業・事業所・店舗の誘致等による産業集積に努め、篠栗北地区産業団地を中心に、新たな雇用の創出と生産人口の増加によるまちの活力向上につながる産業力の強化を図ります。

【将来の生活像】

広域的な交通利便の高さを活かした流通系をはじめとした業務施設等が国道201号等の主要な幹線道路沿いを中心に集積が進み、職住近接によるコンパクトな生活圏が町内で形成されています。

子どもからお年寄りまで誰もがいきいきと活動する自立的な地域を育てます

- ・まちづくりの主役である住民が地域づくりや社会活動等の様々な活動に参加できる機会や空間を整えるとともに、互いに顔の見える地域コミュニティの育成により、安心していきいきと暮らせる自立的な地域環境の形成を図ります。

【将来の生活像】

住民等によるさまざまな活動が展開され、子どもからお年寄りまで多様な世代が共にいきいきと暮らしやすいまちづくりが進み、日常のみならず、災害等の緊急時においても機能する自立的な地域コミュニティが育まれています。

災害に対するまちの防災力を高めます

- ・山地や市街地内を流れる多々良川など、豊かな自然に恵まれる一方で、近年頻発する局地的豪雨等により、自然災害がまちを襲う危険もあることから、洪水被害、土砂崩れなどの災害の発生を抑制しつつ、防災及び脱炭素政策等による災害時のレジリエンス強化及び町土の強靱化を図り、災害に強いまちづくりを進めるなど被害を最小限におさえることができるよう防災機能の強化を図ります。

【将来の生活像】

身近な公園や学校、公民館等の避難環境が整うとともに、防災マップ等をはじめとした災害危険箇所や避難に関する情報等を住民一人ひとりが日ごろから意識し、災害時に備えた安心・安全な生活環境が形成されています。

生活利便の高さと、豊かな自然が織りなす誰もが暮らしやすい住環境を形成します

- ・ 日常的な買物や公共公益サービス等の都市機能の充実及び適切な配置・更新、身近な公園・道路の環境改善を図り、快適で暮らしやすい住環境を形成することで、従来のベッドタウンからリビングタウンへの転換を図ります。
- ・ 新たな住宅需要に対し、適切な開発誘導を行うとともに、既存の良好な農地や自然と調和した住環境の整備を図ります。
- ・ 日常の暮らしのなかで、山々の緑や多々良川の水辺等の豊かな自然が身近に感じられる篠栗町の特色を活かし、市街地周辺の集落においては優良田園住宅制度等を利用したゆとりある快適な住環境の形成を図ります。
- ・ アフターコロナの生活様式の変化に対応し、リモートワーク等の環境が確保された職住一体の住環境の形成を図ります。

【将来の生活像】

水と緑豊かな自然を身近に感じながら、生活利便施設が町内に整い、市街地の周辺にはゆとりある住宅地が広がり、身近な公園では元気に遊ぶ子どもたちやお年寄りなどの多様な世代が憩い、快適でゆったりとした暮らしが形成されています。

豊かな自然がつくりだす美しい風景を守ります

- ・ 市街地を取り囲むように三方を緑豊かな山々が広がり、まちの中央部には多々良川が流れるなど、雄大で豊かな自然に抱かれたまちとして、自然がつくりだす美しい風景を守り、その風景と調和する市街地の景観形成を図ると同時に、環境保全と脱炭素政策の両立を進め、持続可能な社会の構築を目指します。

【将来の生活像】

日常生活のなかで、まちなかの道路や多々良川沿いを散策する時など、多様な生活シーンの中で、ふと目を上げると、緑豊かな山々と川がつくりだす美しい風景が昔と変わらず見ることができます。

住民が育んできた豊かな資源を活かし、観光力を高めます

- ・ 篠栗四国八十八ヶ所霊場などの歴史的・文化的な資源に、豊かな自然が作り出す美しい風景を生かした森林セラピーなど、篠栗町の人々の生活とともに育まれてきた豊かな地域資源を活用しながら、さらなるまちの魅力や楽しみ方を発信する着地型観光を推進し、まちの活力となる観光力の向上を図ります。
- ・ また、福岡都心の近郊であり、交通利便性が高いことから、篠栗北地区産業団地の産業観光等も含め、一層の集客を進め、雇用創出につながる観光活性化を図ります。

【将来の生活像】

八十八ヶ所霊場に遠方から訪れる人たちだけでなく、近郊の都市の人々が、休日などには山歩きや水辺の散策、四季の変化とともに彩りが移り変わるまちの風景を楽しみに訪れ、にぎわいのある光景があちこちで見られます。

3. 都市計画区域における目標人口

(1) 町全体の目標人口 (基準年:平成22年(2010年)国勢調査人口)

篠栗町人口ビジョンでは、現状の人口動向を踏まえた推計人口の算出を行い、出生率の改善や転入促進等の多様な施策の実現により、定住人口の回復を目指すものとし、令和42年(2060年)の篠栗町全体の目標人口を29,000人と定めています。

(2) 都市計画区域における目標人口

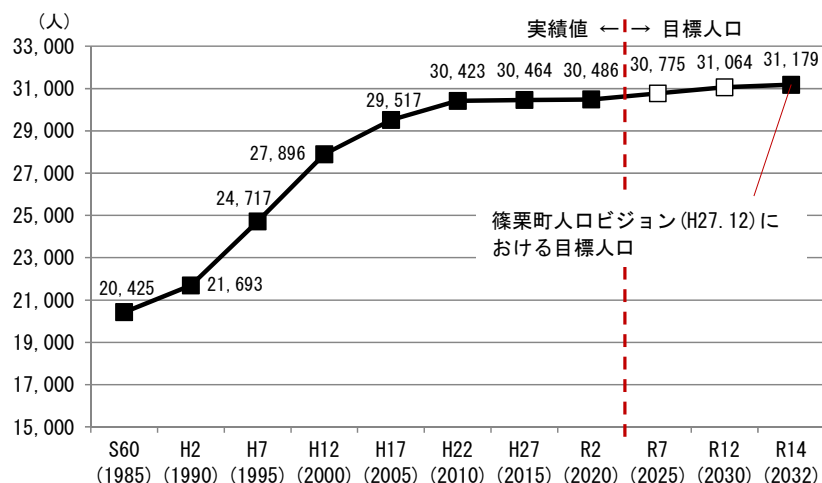
篠栗町では、「篠栗町人口ビジョン」において、多様な施策を展開することにより、令和42年(2060年)の町全体の人口において29,000人を目指すとしています。

平成29年に、福岡市及び近隣市町にあった都市計画区域の広域統合が図られ、篠栗都市計画区域は、福岡広域都市計画区域の一部となりました。

そこで、篠栗町内の都市計画区域の目標人口を設定するにあたり、総合計画に基づく多様な施策が実施されることをふまえ、本都市計画マスタープランにおける目標年次である令和14年(2032年)まで、都市活力を担う人口を維持することを目指したまちづくりを推進することが必要であると考えます。

篠栗町人口ビジョンでは、令和12年(2030年)の人口総数を32,186人、令和17年(2035年)の人口総数を31,961人と推計していることから、その中間期である令和14年(2032年)の町全体の人口を32,096人とします。篠栗町内の都市計画区域の人口は、町全体の人口の97.1%(平成22年(2010年(人口ビジョンの基準年)))となっていることから、これに乗じて、篠栗町内の都市計画区域における令和14年(2032年)の目標人口を、31,179人と設定します。

▼都市計画区域(篠栗町内)の人口推移と目標人口



4. 将来都市構造

将来の都市構造は、現在の地形、地勢、土地利用、交通網等による構造を基本としつつ、将来像の実現に向けたまちづくりのテーマに基づき、都市の骨格を形成する拠点と軸を位置づけるとともに、都市としての一体的な土地の保全と活用を進めるためのゾーンによる構成とします。

(1) 拠点と軸

□中心拠点

- ・本町の玄関口であるJR篠栗駅を中心とした南北地区を「中心拠点」と位置づけ、まちの中核機能を有する行政施設や健康・文化・交流を担う公共公益施設等が多く集積し、住民が集い賑わうことによるまちの顔となる魅力ある拠点の形成を図ります。
- ・中心拠点では、今後の公共公益施設の更新等にあわせて、周辺市街地の活性化にも寄与するよう、住民や町外からの来訪者を惹きつける、魅力ある土地利用を進めていきます。

□交流拠点施設

- ・地域における住民間の交流や地域の身近な防災の拠点を担う施設として、学校等の公共施設を「地域交流拠点施設」と位置づけ、アクセス性や施設利便性の向上を図ります。
- ・まちづくりの主体である住民がスポーツ等を通して、いきいきと楽しく暮らすことができる交流の場である運動公園を「スポーツ交流拠点施設」と位置づけ、アクセス性や施設利便性の向上を図ります。

□広域交流軸

- ・福岡都市圏における住民の生活行動を支えるとともに、筑豊地域との広域的な都市間の交流や九州内の各都市への広域的な交通ネットワークへとつながるアクセスを担う交通網として、国道201号や県道607号福岡篠栗線、JR篠栗線を「広域交流軸」と位置づけ、沿道の活用を検討するとともに交流機能の強化を図ります。

□地域連携軸

- ・広域的な交流を担う広域交流軸とのネットワークを補完し、町内における地域間の連携を支える骨格を担う道路を「地域連携軸」と位置づけ、都市内における円滑な移動や地域間の連携の促進を図ります。

(2) ゾーン

□拠点市街地ゾーン

- ・JR篠栗駅を中心とした南北の市街地を「拠点市街地ゾーン」と位置づけ、多様な公共公益施設をはじめ、住民の日常的な生活サービス施設、住宅等の多様な都市機能の集積を図り、本町の拠点を担う高密な市街地形成を図ります。

□住宅市街地ゾーン

- ・拠点市街地周辺や北部の大規模な開発団地等は、「住宅市街地ゾーン」と位置づけ、背景となる緑豊かな山並みや多々良川の水辺などの自然と調和した良好な住環境の形成を図ります。

□産業業務ゾーン

- ・広域交通の利便の高さを活かし、工業系や流通業務系、商業系の土地利用を図る地区を「産業業務ゾーン」と位置づけ、広域交流軸とのアクセスや周辺の住宅市街地の環境に配慮した市街地形成を図ります。

□計画的活用ゾーン

- ・広域交通の利便の高さを活かすことにより、新たな雇用の創出による都市活力の維持・向上、職住近接の生活環境を活かした定住人口の維持・増加に向け、計画的な土地の活用を図る地区を「計画的活用ゾーン」と位置づけます。
- ・ただし、農地の保全等を図ることを前提としつつ、後継者や担い手不足の問題も考慮しながら、無秩序な市街化を促進することのないよう、計画的な整備・活用を図ることとします。

□田園ゾーン

- ・多々良川沿いをはじめ、町の西部に広がる農地と集落地からなる地区を「田園ゾーン」と位置づけ、営農環境の維持・向上により優良なまとまりある農地集約等を図り、市街地の背景となる美しい田園風景との調和を図ります。
- ・田園ゾーン内の乱開発を防ぐために、農業への配慮を前提として、計画的活用ゾーンに移行することを条件に、需要に対応した、適切な範囲で、計画的な市街化を進めます。
- ・田園ゾーン内の既存集落等においては、地区計画や優良田園住宅等の制度活用を視野に、住環境の維持・更新を図ります。

□森林ゾーン

- ・緑豊かな樹林地や山間の集落からなる地区を「森林ゾーン」と位置づけ、豊かな森林の維持・管理による自然環境の保全や山間の集落の活力維持を図ります。

□レクリエーションゾーン

- ・太宰府県立自然公園区域を「森林レクリエーションゾーン」と位置づけ、豊かな自然と歴史・文化に親しむことのできるレクリエーションの場として保全・活用を図ります。
- ・市街地内を流れる多々良川の水辺を「親水レクリエーションゾーン」と位置づけ、住民が身近に水辺に親しむことのできる親水空間としての整備・活用を図ります。

□文教ゾーン

- ・移動距離の制約等を受けずに、誰もが学びや保育の機会を享受できるように、教育及び保育施設の整備・活用等を図ります。

□都市施設（ごみ処理場）ゾーン

- ・須恵町、粕屋町、篠栗町で構成している一部事務組合（須恵町外二ヶ町清掃施設組合）が運営している「クリーンパークわかすぎ」は、都市計画決定しているごみ処理場（都市施設）です。計画に即した適切な土地利用を図ります。

▼将来都市構造図

